

まちよりむらより、 持ちより公民館だより

「そば打ち入門道場」

八千代市八千代台公民館 ☎047-483-5553



「そば打ち入門道場」は、蕎麦の打ち方を基礎から学ぶ全6回の講座です。みなさんも、蕎麦屋の店頭などで、蕎麦を打っている姿に興味をひかれ、自分で打ってみたいと思ったことはありませんか。本講座は、蕎麦打ちの体験で終わることなく、蕎麦打ちの技術を習得するとともに、自分で打った蕎麦を味わうことで食に興味関心を持つことを目的としています。

打つ蕎麦は、蕎麦粉400グラム、小麦粉(強力粉)100グラム、水を約200グラム使用する「二八蕎麦」です。

講師は、八千代市立小学校の元校長先生です。退

職後に蕎麦打ちを習い始め、現在では八千代市内の各公民館、農業交流センターなどで蕎麦打ちの講師を依頼される人気のある講師です。

講座は、講師がその日のテーマを中心に説明を行いながら、蕎麦打ちを毎回行い、その後、受講者が2班に分かれて蕎麦を打っていきました。最初はごちなく、まわりの様子をうかがいながら蕎麦を打っていましたが、回を重ねるごとに上達していく様子は目を見張るものがありました。講義の最終日は、受講者の手際が良く、予定より1時間ほど早く全員の蕎麦打ちが終了しました。閉会式は時間を長くとることができ、今後蕎麦打ちを続ける場合は、どのようにしたらよいのか。具体的に道具の選び方から、参考になるテキストの紹介など講師から詳しく説明していただきました。また、受講者同士の交流を行うこともできました。

今後も、受講者が蕎麦打ちを継続し、生涯学習の一環として、蕎麦打ちの趣味が加わり、人生の楽しみが増えてくれればと思います。

「大人のチャレンジ教室 ～座禅体験～」

富津市富津公民館 ☎0439-87-8381

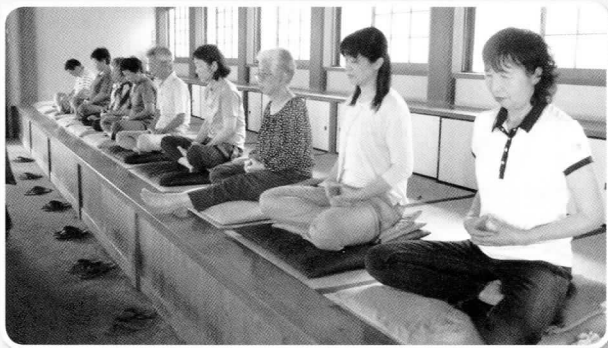
富津市富津公民館は、富津市の北部に位置しており、近くには富津岬(県立富津公園)をはじめ、富津地区工業用地などがあります。1984年に開館し、今年で31年目を迎えました。

平成27年度は12の教室・講座を開設。その中の1つとして毎年1回「大人のチャレンジ教室」と題して、マザー牧場の近くにある鹿野山禅青少年研修所で座禅体験を行っています。大人のチャレンジ教室は、日頃の騒々しい日常から少し離れることにより、心と体をリラックスさせて明日からの活力を見出すことを目的としています。今年度は7月18日(土)に行い、19名が参加しました。

禅堂に到着してから和尚さんの指導により、何事も考えず呼吸の音だけを感じて精神統一。希望者の方は警策(きょうさく・けいさく)で肩を叩いてもらえます。夏真っ盛りなのでとても暑かったですが、日常から離れた静けさを体験できました。また、座禅の他にも般若心経の写経にチャレンジし、墨で書かれた文字を見て心の安らぎを感じました。終わっ

た方から順番に抹茶を頂き、その後、和尚さんの法話を聞いてから、最後にご褒美の精進料理(うどん食べ放題!)を頂きました。参加者の皆さんからは「やって良かった」「また来年も参加したい」という声が多く、充実した時間になったことでしょう。

これからも地域の学習拠点として、地域の方が、学びたい・チャレンジしたいと思える様々な事業を行い、来館される方々一人ひとりの憩いの場となるような公民館づくりをしていきます。



ちばけん公民館 スタッフニュース



わがまちじまん!!

屏風ヶ浦を背景に熱戦を繰り広げるトライアスリートたち

銚子市は、東京から約100キロメートル、関東平野の最東端に位置し、西は旭市・東庄町に接し、北は利根川を隔てて茨城県神栖市と相対し、南は九十九里浜に続くほかは、果てしない太平洋に接し、三方を水に囲まれています。沖を流れる寒暖二流の影響を受けて東京に比べ5度前後夏は涼しく、冬は暖かい温暖な気候となっています。

恵まれた自然環境と地理的条件を活かし、古くから漁業と醤油醸造のまち、また、利根川を利用した水運基地として栄えました。現在は、灯台印キャベツをはじめ、メロン、ダイコンなどの全国屈指の農業生産が加わり、首都圏の台所としての役割を担っています。

この温暖な気候と雄大な海岸線、風光明媚な景観は年間を通じて多くの観光客で賑わっていますが、近年ではトライアスロンやマラソンなどのスポーツによる地域活性化にも取り組んでいます。10月の銚子マリーナトライアスロン大会に全国から約700人のアスリートが参戦し、11月の銚子ハーフマラソン大会(別名:さんまマラソン)では約4,000人の市民ランナーが犬吠埼周辺を駆け抜けます。



魅力ある講座づくりの基礎知識



公民館では講座を開催することが必須となっています。また、社会教育法第22条では「定期講座を開設すること。」と記されています。今回は講座づくりの基礎となる一連のプロセスを紹介します。

1. 学習テーマの設定

公民館講座では、住民の「実際生活に即する」学習テーマを設定することが大切である。

学習テーマは、住民の生活の中に顕在的・潜在的に存在する。職員は住民との対話等の中から住民の暮らしぶりや地域課題を感じ取る能力が求められる。「学習テーマ」について住民と共に議論する場（機会）をつくることも大切である。

2. 学習プログラムの構成

「講座づくり」において、最も重要なプロセスが「学習プログラムの構成」である。

住民に解りやすい「目的」、講座タイトル（名）は、「学習内容」が想像でき、興味・関心を引き出せること。「目的」、「特徴（ウリ）」、「学習内容」などをしっかり考案し、「対象」、「会場」、「回数」、「定員」、「学習方法」などを設定することが大切になる。

3. 広報戦略・宣伝活動

講座の「基本情報」を解りやすく、講座に込めた「想い」しっかりと伝え、地域の中に「学び」の輪を広げていくことが基本となる。

対象により「チラシ」や「新聞」、「地域広報誌」などの紙媒体なのか、「HP」、「SNS」などのネットを活用したものなのか、どのようなメディア（情報媒体）を活用するのかを見極めることが重要になる。

4. 講座の準備・運営

講座の目的・学習テーマなどについて「参加者（住民）」、「講師」、「職員」の三者が共有することが望ましい。また、職員は必ず講座に参加し、「共に学ぶ」という姿勢と住民の「学びの展開・反応」を把握しておくことが大切である。

講座の準備として、会場の確保、必要備品の用意、講師との事前打合せ、プログラム（日程表）、講師プロフィール、資料等をしっかり用意し、運営当日の進行役を謙虚に務める。

5. 講座終了後の支援

予定された講座（事業）が終了すれば、講座は「おわり」ではない。講座での「学び」をきっかけとして、「自主的な学習・地域活動」へ発展させていけるよう、後方（側面）から支援することが大切である。また参加者が「次に何を求めているか」を把握する。

6. 事業評価・講座のふり返し

社会教育法第32条や文部科学省告示「公民館の設置及び運営に関する基準」第10条にあるとおり、運営の状況や講座について自ら点検評価を行い、その結果を住民に対して公表するように努める。そのため講座の最後には「職員」と「参加者」が共同で講座について「振り返る」機会をつくりだすことが求められる。

※次回の講座づくりへ

まちより むらより、

「あなたの手で助かる命がある ～赤十字救急法講座～」

山武市成東中央公民館 ☎0475-82-3641



館連絡協議会会員、山武市歴史民俗資料館職員及び公民館利用者の合同で行いました。昨年山武地区が担当した第66回千葉県公民館研究大会の大会テーマ「連携」であったこともあり、様々な機関が連携した講座を実施したいと思ったことも背景にあります。日本赤十字社千葉県支部によると、公民館などさまざまな機関と連携した本講座の形態は、県内初の試みとなるとのこと。

当日は、約80名の参加者が3人1組のグループにわかれて、AEDを使用した心肺蘇生法、気道異物除去、止血法、三角巾を使用した包帯法、咬創に対する手当法を学びました。

「とても勉強になった」「忘れてしまうのでまた参加したい」など、実生活に即した講座を実施できました。

講座終了後、山武地区内で参加した公民館職員が、自館で実際に応急処置を施す際に今回の講座で学んだことがいかされたとの報告もあり、今後も継続して講座を実施することで、一人でも多くの命を救える、そんな相互扶助の社会が実現できたらよいと思います。

山武市成東中央公民館では、県内でも医療過疎地域にある山武地区の諸問題と公民館内で事故が発生した際に適切な応急処置を施すことを目的に6月7日(日)午前9時～午後3時まで、赤十字救急法講座を日本赤十字社千葉県支部の指導のもと、千葉県赤十字特殊救護奉仕団、山武市赤十字地域奉仕団、成東・東金食虫植物群落を守る会会員、山武地区公民

「子ども達の交流の場に!!」 おいでよ子ども土よう塾

大多喜町立中央公民館 ☎0470-82-3188

大多喜町立中央公民館からご紹介する主催事業は、「おいでよ子ども土よう塾」です。この事業は、平成14年から学校週5日制となり、子ども達に身近な自然や文化を通じた体験活動等を実施し、休日の子供達を支援することを目的にスタートしました。対象は、町内の小学生、人数は30名程度募集しています。

「おいでよ子ども土よう塾」は、「工作教室」「映画教室」「お菓子づくり」「クリスマスアレンジ」を年5回(土曜日)開催し、子ども達に好評な教室です。

今回は、「クリスマスアレンジ」をご紹介します。「クリスマスアレンジ」は、身近な自然のものを使い、子ども達の豊かな発想力と創造力で作品を作っていきます。

参加した子ども達は、「先生どうやってやるの?」と初めは戸惑い、周りを見回しながらガラス容器や松ぼっくりの飾り付けをしていましたが、時間が経つにつれ、自分流のクリスマスアレンジを楽しんでいました。子ども達は、出来上がった作品を満足気

に見ていました。クリスマスには、その作品を家族で囲み楽しいクリスマスを過ごしたのではないのでしょうか。

「おいでよ子ども土よう塾」は、これからも子ども達に交流の場や体験活動の場を提供し、より多くの経験ができるような教室を開催したいと考えます。



持ちより公民館だより

「ふれプラ通学合宿」

栄町ふれあいプラザさかえ ☎0476-95-1112



ふれプラ通学合宿が6月28日から30日までの2泊3日、町内の安食小学校と安食台小学校の児童31名がふれあいプラザさかえ悠遊亭に宿泊しながら通学しました。

通学合宿は、家庭を離れ、別の学校・学年の児童と一緒に、炊事、掃除、入浴等身の回りのことを行い、共同生活をしながら学校に通います。

この事業は、児童が、集団生活することを通じて生活技術を体得することに留まらず、社会性、自主性、

協調性を養います。また、自分の生活を振り返る中で、家族との関係を見つめる機会とともに、お手伝いしていただく地域の方々とのつながりを深め、地域の教育力の向上を目的としています。

最初の食事づくりでは、各自が持ち寄った献立を各班で話し合い、自分の意見をはっきり伝え、また人の意見を聞くことができている班、なかなか献立が決まらない班もありました。献立を決めた後に近所のスーパーに全員で買い物に行きましたが、電卓とにらめっこで何を買おうか迷いながらも楽しそうに買い物をしていました。調理は、手際の良い子、全然やったことのない子にボランティアの方からアドバイスを得ながら、美味しくいただきました。

1日を終えて、疲れを感じてはいるものの友達とワイワイガヤガヤ話が尽きず、夜更かしがすぎました。2日目は朝から少し疲れ気味の様子もありましたが全員無事に3日間修了しました。

今年は、5年ぶりということもあり職員にノウハウもあまりない中での実施でしたが、地域の方がたの協力を得て、参加者、保護者からは『また来年も参加したい』『楽しかった』と良い評価を得ることができました。参加した子どもたち、家族と地域の方がたに良い思い出となってくれるといいですね。

「子ども祭りin長南」

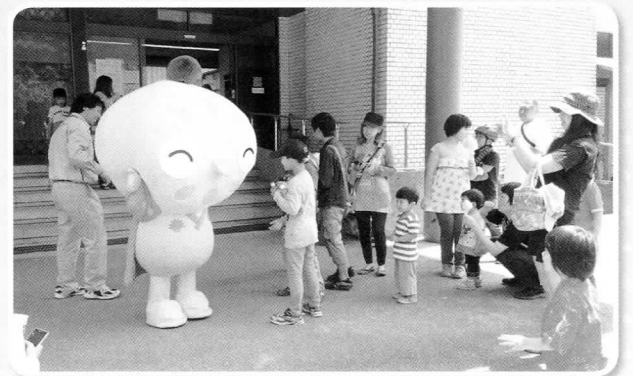
長南町中央公民館 ☎0475-46-1194

5月3日、長南町中央公民館ではゴールデンウィーク恒例の「子ども祭り in長南」が開催されました。

会場では長南町のゆるキャラ・ちよな丸が子どもたちをお出迎え。そして、青少年相談員によるポップコーン・綿菓子の無償配布と型抜き、自主サークルの方々による囲碁・将棋、リボンフラワー作り、プリザーブドフラワーなどの各種体験コーナー、協働交流サロンによる絵本読み聞かせとジャンボカルタ遊び、食生活改善協議会によるお菓子作り体験、郷土資料館での勾玉作り体験など、盛りだくさんの楽しいイベントが催されました。さらに、今年は合併60周年記念として大道芸人のたつきんさんが出演し、愉快でスリリングなパフォーマンスで子どもたちを大いに沸かせてくれました。また、かつてこの地方では5月に「凧あげ」が盛んに行われていたことにちなみ、長南袖凧保存会

が公民館に隣接する野球場で「子ども凧あげ大会」を開催してくれました。

五月晴れの空の下、公民館はたくさん子どもたちの歓声に包まれ、とても楽しい一日となりました。



シリーズ・県内の

元気館

～教育・地域・文化の融合を目指して～

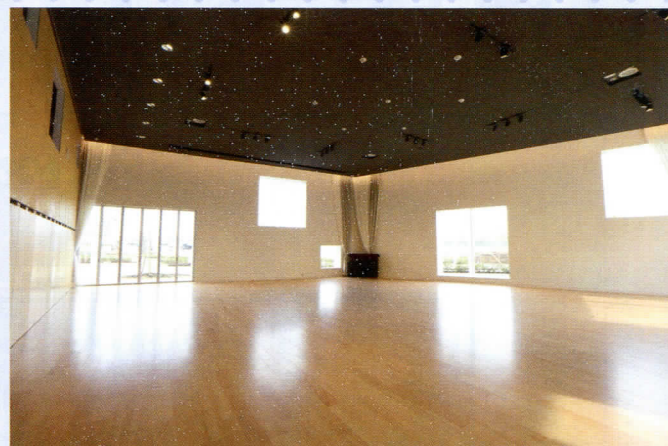
流山市おおたかの森センター

☎04-7159-7031



平成17年のつくばエクスプレス開通と共に発展を上げている「流山おおたかの森駅」周辺は、「アーバンパストラル＝都市性と田園性の共生、調和」をまちづくりのコンセプトに掲げた流山市の新しい顔となるエリアです。平成27年4月、ファミリー層を中心とした人口の増加が著しいこのエリアに、「流山市立おおたかの森小・中学校」が開校しました。隣接するおおたかの森(市野谷の森)からさわやかな風が吹きぬけるよう設計された斬新なデザインのこの建物は、こどもたちの9年間の学びの場に加え、市民が利用できる「流山市おおたかの森センター」「流山市立おおたかの森こども図書館」「おおたかの森小学校区学童クラブ」の3つの施設が併設された複合施設となっています。

「流山市おおたかの森センター」は、公民館の所掌で、幅広い年齢層の方が活動する拠点です。施設には多目的に利用できるホールと、サークル、市民団体の交流会や学習会として利用できる会議室があります。180名収容のホールは、フローリング仕上げの美しい床面と5mの天井高を誇る、明るく気持ちのよい空間です。ダンス、幼児リトミックなど運動系でのご利用や、集会、講演会、地域住民説明会などパブリックな目的でのご利用に適し



ています。また会議室のうちの一つはパーテーションで2分割利用が可能となり、全ての窓ガラスを開放する事で廊下や外とつながり、フレキシブルに利用できるのが魅力です。

当センターは地域コミュニティの核となるよう、学校と地域をつなぎ、市民の方々の活動が多世代にわたり時空を超えて広がっていくことを目指します。複合施設の特性を活かし、「防災研究&調査隊」と称して小・中学校に配置された最新の防災設備を見学し、実際の避難場所としての備えを知る防災事業や、こども図書館と連携しての定期的なおはなし会、学童クラブと連携してのコンサートなどを企画しています。



今後ますます人々の輪が広がる活気あるエリアで、学校のもつイキイキとした雰囲気や反映させた「教育・地域・文化」が融合する複合施設として、「学校に通う子どもたちの安全」と「開かれた公の施設」との共存を図り、多くの皆さまに愛される施設運営に励んでまいります。

ちばけん公民館
スタッフニュース編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会
委員長：村上 明子(流山市中央公民館)発行：千葉県公民館連絡協議会
印刷：エリート情報社